

## <幼稚園教育>

# 幼児の望ましい発達を促すための環境構成の工夫

—ターザンロープやスクーター遊びを通して—

糸満市立喜屋武幼稚園教頭 崎山 千鶴子  
指導講師 佐敷町立佐敷幼稚園教頭 玉城 美慧子

### 内容要約

幼児が自ら遊具にかかわり、自分なりに力を発揮するために、ターザンロープを新たに作り、スクーターの台数を増やした。幼児は環境構成を工夫することによって、興味、関心を示し、主体的に遊ぶなかで、イメージを広げ、試したり、工夫したりして、集中して遊ぶ。そのなかで、遊びを通して仲間意識も育つ。また、安全にも気をつけながらごっこ遊びを楽しみ、幼児の望ましい発達が促される。

【キーワード】 信頼関係、興味・関心、主体的、仲間意識、自己発揮

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究の全体構想図	2
IV	研究内容	3
1	幼児と環境のかかわり	3
2	幼児の望ましい発達が促される過程	3
3	幼児の発達の道筋	3
4	幼児に影響を与える環境構成の工夫	3
V	保育実践	6
1	検証保育を通して	6
2	一人ひとりの発達課題に応じた援助	9
VI	研究の成果と課題	10
1	成果	10
2	課題	10

## <幼稚園教育>

# 幼児の望ましい発達を促すための環境構成の工夫

—ターザンロープやスクーター遊びを通して—

糸満市立喜屋武幼稚園教頭 崎山千鶴子

## I テーマ設定の理由

幼稚園教育は「環境を通して行うものである」と幼稚園教育要領に述べられている。

幼児期にどのような環境のもとで生活し、環境とどのようにかかわったかが、将来にわたる望ましい発達や人間としての生き方に重要な意味を持つといわれる。望ましい発達とは、幼児が園生活の中でお互いに影響を受けながら主体的に遊びに取り組み、友達と仲良く遊んだり、物事に集中したり、試したり、工夫したり、思っていることが言えたりするなど、相手の気持ちがわかるようになっていく過程である。望ましい発達を促すためには、幼児の興味や関心に応じて刺激が得られるような環境が必要である。そして、工夫された環境構成のもとで、幼児は、教師の援助を受けながら遊び方のよりよい方法を考え、遊びをつくり出していく。

これまでの遊びを見ていると、自ら物事に取り組み、遊びに夢中になるなかで、試したり、工夫したりしながら、主体的に楽しんでいる。反面、遊びに取りかかるのに時間がかかり、その間、友だちの遊んでいる様子を見ながら心で参加している幼児もいる。また、一つの遊びを持続できず集中して遊ぶことが不得手の幼児もいる。

このことから、方策はいろいろ考えられるがここでは環境構成を見直ししながら、望ましい発達を考えていきたい。

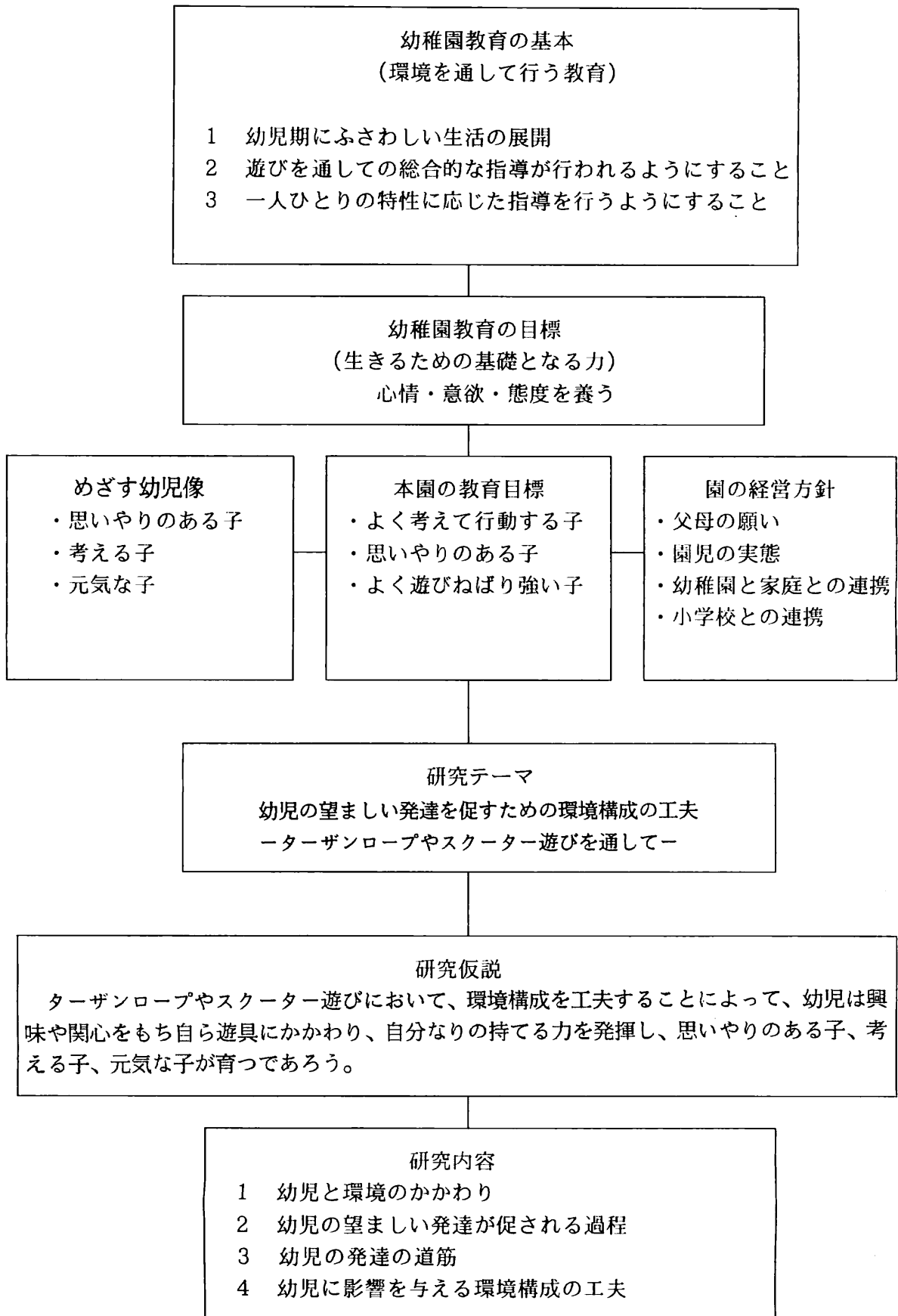
具体的には、幼児が興味、関心をもって遊びたくなるような環境構成の工夫をすることが大事である。例えば、ターザンロープやスクーター遊びのような挑戦意欲をかりたてスリル感、スピード感にあふれた遊具等の設置である。ロープの数を増やし、長さの調節をしながら、新たな場所にターザンロープなどを取りつける。また、小さくて軽いスクーターも準備して、トンネル山や小学校の斜面を活用する。そして、幼児が主体的にそのような遊具にかかわるなかで、教師が認め、励ますことにより教師との信頼関係も築かれ自己を発揮するようになる。教師に認められた幼児は、より積極的に創意工夫しながら遊ぶようになる。

よって、園生活への充実感、満足感、達成感を得て、友だちと仲良く遊ぶなかで、思いやりのある子、考える子、元気な子に育つだろうと思い、本テーマを設定した。

## II 研究仮説

ターザンロープやスクーター遊びにおいて、環境構成を工夫することによって、幼児は興味や関心を持ち、自ら遊具に関わり、自分なりの持てる力を発揮し、思いやりのある子、考える子、元気な子が育つであろう。

### Ⅲ 研究の全体構想図



## IV 研究内容

### 1 幼児と環境のかかわり

幼児期は、心身の成長発達が著しく、この成長発達に果たす環境の役割は大きい。幼児は、環境にはたらきかけ、環境の影響を受けながら、成長していくことが多い。

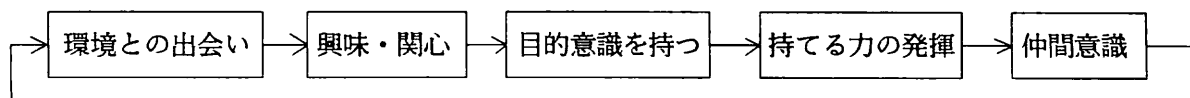
幼児が主体的に環境にかかわることによって、持てる力を十分に発揮しながら、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること。すなわち「環境を通して行う教育」が基本となるのである。環境を通して行う教育は、遊具や用具、素材だけを配置し、するがままに、任せるのではなく、逆に、幼児に押しつけたり、詰め込んだりするものでもない。幼児は、自ら興味や関心を持って環境にかかわり、試したり、くり返したりしながら、しだいに身に付いていくことである。

環境には、物や人、自然の社会事象、時間や空間、それらがかもし出す雰囲気など、様々な要素が含まれている。そうしたものを相互に関連させながら、幼児の興味や関心に即して主体的な活動を促し、その活動の中で、必要な体験を重ねていけるような状況を、積極的に創り出すことである。教師は、幼児が環境のどのような面に興味や関心を抱いているかを読みとることが大切である。同じ環境におかれても、幼児の受け止め方は様々である。ターザンロープひとつにしても、ぶら下がるものとしてとらえる場合もあれば、ガソリンスタンドのノズルに見立てる場合もある。環境をどのように受け止めるかは、状況によって異なってくる。こうした受け止め方の違いは、一人ひとりの幼児の生活経験や個性の違い、あるいは、興味や関心の違いなどによる。だから、教師は、一人ひとりの幼児が、今ある環境をどのように受け止めているかを理解することが重要である。

### 2 幼児の望ましい発達が促される過程

自然な心身の発達に伴い、人が能動性を発揮して環境と関わり合う中で、生活に必要な、能力や態度などを獲得していく過程を発達と考える。

幼児が環境とのかかわりを通して、望ましい発達を遂げるためには、興味や関心を持ち、目標に向かって、自分の持てる力をどのように発揮したか、友達との関係は、どのように変化してきたかなど、発達の実情を理解することである。幼児の環境との関わり合いによる発達は、一般的には、下図の通りであるが、幼児の発達の道筋には、個人差があり、多様な過程を経ていく。



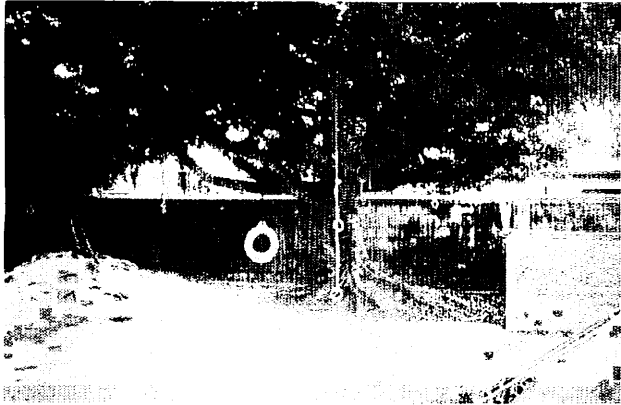
### 3 幼児の発達の道筋

- (1) 発達の側面は、伸びたり、一つの側面が伸びることによって他の側面が促される。
- (2) 発達の道筋には節目がある。停滞したり、低迷したりしているように見えるときもある。  
しかし、こうした時期は、その子なりに貯め込んであるものがあり、その時期を乗り越えると急激に発達することもある。
- (3) 発達する姿は、長い期間としてみれば、共通性や順序性が見られる。

### 4 幼児に影響を与える環境構成の工夫

- (1) ターザンロープを通して
  - ① ねらいに見立てて、イメージを広げたり、知的好奇心をもったり、挑戦意欲や思いやりがもてるようになる。
  - ② 利用状況  
友達と一緒に遊ぶ中で、コウモリ、ロープをノズルに見立ててガソリンを入れたり、ターザンロープに飛び乗ったりなど、遊ぶ姿が見られた。

工夫前



工夫後



・コウモリ



・ロープをノズルに見立てて  
ガソリンを入れる。



・ターザンロープに  
跳び乗って遊ぶ。



・二人で挑戦しよう。

③ (表1) 環境の工夫、幼児の姿、変容(育ち)

環境の工夫	幼児の姿	変容(育ち)
ロープの数を増やしたり、長さの調節をしたりする。	興味を示し、〇〇に見立てて遊ぶ。 友達とだれが早く木に登ることができるかと、ロープにつかまり競争する。	イメージ 工夫 挑戦意欲 仲間意識 敏しょう性
新たな場所に、ターザンロープを取り付ける。	関わって遊ぶ、幼児が増えた。 一人乗りから二人乗りに挑戦する。	創造性 知的的好奇心
コロコロ(台)を利用する。	順序よく並んで、また、ロープの距離感を考える。	瞬発力、安全性、思考力 ルール、環境を再構成して持てる力の発揮。



台に乗ると遠くまで行くよ。



より大きく揺らすことができる  
ように友達が思いついている。

④ 指導上の留意点

園庭や遊具などの安全点検をし、工夫して遊ぶことができるように、遊具を幼児と一緒に準備する。

⑤ 成果と課題

一緒に仲良く遊んだり、思っていることが言えたり、相手の気持ちが分かったりする、友達や教師がいる。

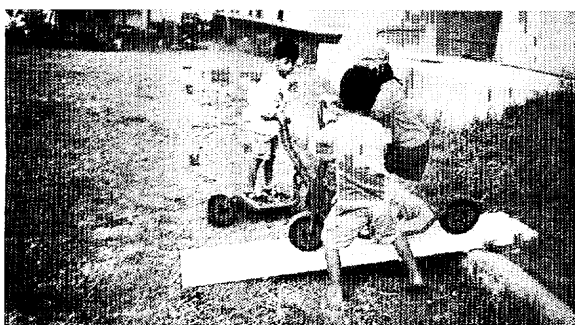
(2) スクーターを通して

① ねらい

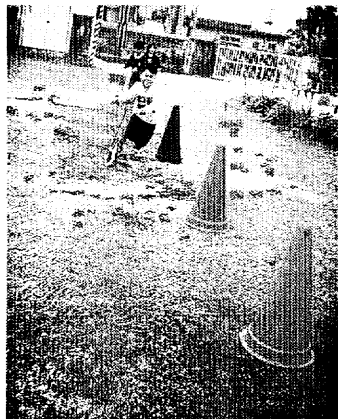
自分や友達の持っている力に気づいたり、発見したり、感動したり、試したり、工夫することによって、満足感、充実感、達成感が得られるようになる。

② 利用状況

幼児は、セメントの上でぶつからないように、進む方向を考えて工夫しながら遊ぶ。斜面にスノコを置いて、自分の持っている力を知って、角度を調節したり、何度も繰り返し、挑戦し、トンネル山とつなげて遊びを広げる姿が見られた。



・自分のもっている力を発揮し、上手に乗れない幼児を支えている。



・むずかしいけど、楽しい。



・足で調節しながら、すべりおる。



・ヤッターという達成感



・スノコで斜面を調節しながら遊ぶ。

③ (表2) 環境の工夫、幼児の姿、変容(育ち)

環境の工夫	幼児の姿	変容(育ち)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さくて軽いスクーターを準備する</li> <li>・トンネル山を活用する</li> <li>・小学校の斜面を活用する</li> <li>・スノコを準備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいいと言って喜び、乗って遊ぶ。</li> <li>・平坦な所で乗って遊んでいたが、1、5m高さのセメント造りのトンネル山へ運び、足で調整しながら乗って遊ぶ。</li> <li>・段差があるので、斜面をこわがりながら走らせている。</li> <li>・何度も乗って、スムーズにできた幼児は喜んで挑戦する。</li> <li>・角度を調節しながら置き、何度も試したり、くり返したりする。</li> <li>・スノコの上から走らせると、ドキドキしてくるという。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親近感</li> <li>・挑戦意欲</li> <li>・思考力</li> <li>・スリル感</li> <li>・運動能力</li> <li>・注意力・集中力</li> <li>・挑戦意欲</li> <li>・充実感</li> <li>・探求心</li> <li>・集中力</li> <li>・スリル感</li> <li>・スピード感</li> <li>・満足感</li> <li>・自己発揮</li> <li>・意欲</li> <li>・試行</li> </ul>

④ 指導上の留意点

安全面に気をつけて遊ぶことができるように、幼児と一緒に安全確認をしながら、遊びが進められるようにする。自分の持っている力が出せるように、励ましたり、共感したりする。

⑤ 成果

幼児は、自分の持っている力を知って、自分なりの遊び方を展開していく。時には、教師が意図的に置いた三角ポールをジグザグに走らせる。途中、難しいと言って遊びは長続きしなかったが、困難なことにも挑戦させた方が、成長のためにはいいと思った。目標物に向かって、遊びを楽しんだりすることは、満足感・充実感・達成感につながるもので、今後もやっていきたい。

## V 保育実践

### 1 検証保育を通して

(1) 活動名 ターザンロープやスクーター遊び

(2) 活動設定の理由

① 教材観

ロープは「木に上り下りしたり、ぶら下がったり、くるくる回ったり、ゆれたりする物」であり、スクーターは「全身を使って走らせる物」であることを幼児は知っている。

この2つの遊具は、イメージを豊かにし、さまざまな表現を楽しみ、共同の遊具を大切にみんなで使うことができる物である。

そして、落下したり、ころんだりすることによって、自分の能力を知って、何度も試し、工夫しながら遊べる遊具である。

両者とも、けがを伴うことがあるので、安全に気をつけることの事前指導等の注意が必要である。ロープもスクーターもスリルを楽しんだり、安全な行動がとれる遊具であるので幼児の望ましい発達を促すのに適した教材である。

② 幼児観

ロープにぶら下がったり、くるくる回ったり、パレリーナや動物にみたてて表現して遊び、幼児

からターザンロープで遊ぼうと言う声も聞こえた。スクーターは園庭で走らせて遊び数が3台なので「貸さないよー」と言ってくる子もいた。「幼稚園のものはみんなで作ろうよ」と教師が言うと「借りていいよ」と言う。

後から、6台スクーターを増やすと、園児たちは喜んで「軽くて楽しい」「小さくてかわいい」などの声が聞こえ、スクーター遊びを自分なりに、乗りこなして楽しんでいる。また、ターザンロープを子どもたちと一緒に作りながら楽しむ。両者とも、幼児にとって魅力ある遊具である。

### ③ 指導観

ターザンロープは子どもからでた言葉で、ターザンロープを別の場所にも新たに作ることで感動し、満足感、充実感、達成感などを得る。スクーターは平坦での遊びから、次は斜面も経験させてみたいと思い幼稚園のトンネル山、すべり台、園庭、小学校の斜面を活用する。

ターザンロープやスクーターを通してのこの活動は幼児が挑戦したくなるようなスリル感、スピード感を備えている。

興味、関心をもって望ましい発達を促し、特に安全面に気をつけながら思いやりのある子、考ええる子、元気な子をめざして指導をする。

### (3) 評価計画

ターザンロープ	スクーター
・ゆれに気づく{思考力、注意力}	・重い、軽い {思考力、注意力}
・全身を使って活動に取り組み、何度も試す。{意欲、集中力} ・友だちの持っている力に気づき、手助けをして思いやる。{心情、態度} ・自分なりに集中して遊びを楽しむ。{集中力、満足感、充実感、達成感} ・自分の力を知って何度も試し、工夫しながら遊ぶ。{探求心、集中力、創造性、自己発揮}	

### (4) 活動のねらい

ごっこ遊びのなかで、ターザンロープやスクーターなどの遊具に自分なりに集中したり、工夫したりして遊びを楽しむ。

### (5) 活動の内容

ごっこ遊びのなかで、ターザンロープやスクーター遊びなどに挑戦し、自分なりにスリル感やスピード感を味わう。

### (6) 保育の仮説

ごっこ遊びのなかで、自分なりに集中したり、工夫したりすることによって、感動し、満足感、達成感を得ることができるであろう。

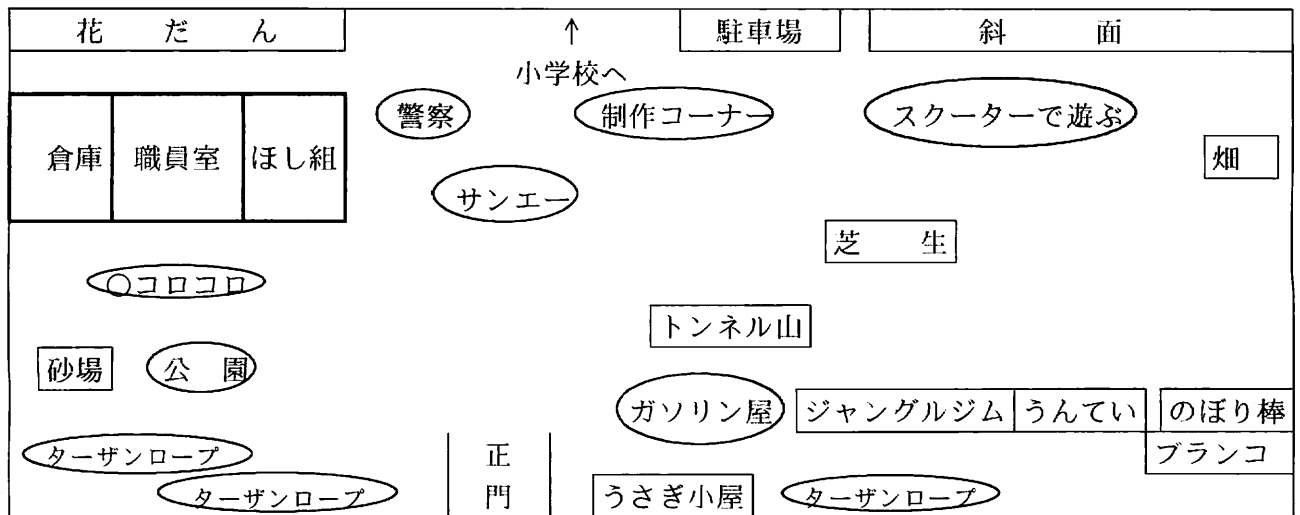
### (7) 展開

時間	幼児の活動	教師の援助
9:30	園庭で、ターザンロープやスクーターなどでごっこ遊びをする。  ○ターザンロープ(公園) ロープをゆらして3コースまで行くと係りからおみやげをもらう。 1コース……高いロープ 2コース……低い赤のロープ 3コース……低い青のロープ (係り)……コースの説明をしたり、おみやげをあげる。	安全面に気をつけながら、教師の位置を考えて配慮をする。  自分なりに気づき、発見、試す、工夫が見られたりしたときは、教師が気持ちを読みとり、見守ったり、共感(認めたり、励ましたり)したりすることによって、感動し満足感を持たせる。  トラブル、喧嘩などは、見守り援助する。



	(お客) 自分なりにコースを頑張る。	遊びに集中させるために、楽しめる遊びをしていたら周りに知らせる。様子を見ながら教材の投入をする。
10:10	○スクーター (ガソリンや) …ガソリンを入れる。 (サンエー) ……果物などを売る。 (駐車場) ……車を駐車場に入れる。 (警察) ……スクーターに乗ってパトロールする。	ごっこ遊びが楽しめるように一緒に参加したり、見守ったりする。
10:20	○片づける	遊具を大切にすることから、片づけを忘れないようにする。
10:30	○遊んだことを話す	楽しかったこと、困ったことなどを聞き、明日への意欲につなげる。
評価	◎自分なりに集中したり、工夫したりして、遊びを楽しむことができたか。 ◎安全に気をつけて遊ぶことができたか。	

(8) 環境構成



(9) 準備

- ・スクーター      ・コロコロ      ・ライン引き      ・スノコ      ・はさみ
- ・画用紙      ・マーカー      ・ひも      ・ガムテープ

(10) 保育の反省

ごっこ遊びの中で、自分なりに各係になりきって、集中したり、工夫したりして、遊びを楽しみ、満足感や達成感がみられた。が、ターザンロープで遊ぶ幼児は少なく、ロープにさわる時間が短かった。また、スクーター遊びのスノコを活用する場面も少なかった。それは、ごっこ遊びの中で、各係が多かったことやごっこ遊びに必要なものを作るのに時間がかかったからだと思われる。なかでも、抽出児のA男は、トランシーバーを3回改良し、工夫して作っていた。同じく抽出児のB男は、店員の係ではないが、店の場所を移動する工夫や友だちを思いやって協力する場面が見られた。警察係は、携帯電話や腕章などを作り、工夫していた。14名の少ない人数に対して、幼児たちが気づき、次には各係を減らしていこうというふうにもっていただけらいいと思った。

(1) 課題

- ① 幼児の活動が広がった場合、教師が援助を必要とする時、援助ができなかったり、困難が生じる時があるので、場の設定を狭めたり、遊びの種類を絞ったりしていきたい。
- ② 今ある環境を生かし、ガジュマルから、うんてい、のぼり棒の所までロープを張り、複合的な遊びを考慮し、幼児と共にコースを作り、得点を設けるなどして興味を高め、ターザンロープ遊びに意欲を持たせたい。
- ③ スクーターをまっすぐに走らせたり、ジグザグに走らせたり、いろいろと単純のものから複雑なものへと挑戦し、競争をしたりして高めていきたい。
- ④ 一人ひとりの発達の特性に応じた指導のあり方を考慮していきたい。

2 一人ひとりの発達課題に応じた援助

幼児	姿	援助
A男	集中して遊ぶことが不得手	満足感が期待できそうな遊びで興味をそそぎ、自信をつけていくことができるように励ます。
B男	試したり、思いやったりができる。	自己発揮ができるように、遊びのなかでやり遂げた充実感をもてるように励ます。
C男	自分を出して遊びを楽しむことができる。	満足するぐらいの遊びを経験し、自信につなげるように共感する。
D男	遊びを楽しみ自己を発揮することができる。	友達関係を深めるために、同じめあてをもって、遊びが楽しめるように見守ったり、共感したりする。
E男	自己主張が強いのでぶつかり合いが多い。	友達関係がよくなるようにお互いの気持ちが、伝わるような援助をする。
F男	遊びの持続時間が短い。	遊びの楽しさをたっぷり経験することができるように、励ましたり、認めたりする。
G男	遊びの楽しさや充実感を味わっている。	自己発揮ができるように、気の合う友達のなかで、認めたり、励ましたりする。
H男	遊びのなかで自分なりの工夫をし、自己を発揮する。	友達関係を深めるために、心を動かすできごとを共有していくことに努める。
I男	意欲的に遊ぶことが不得手。	自信をつけるためには、自己発揮ができるように自分の思いを出させるようにする。
J子	めあてをもって友達と仲良く遊ぶことができる。	仲間関係の広がりや、多くの幼児と関わってほしいので、他児のよさにも気づき、認め合うことができるように援助する。
K子	イメージを広げて遊ぶことができる。	いろいろなイメージ遊びができるように、園生活の様々な場面で認めたり、励ましたりする。
L子	遊びに取りかかるのに時間がかかる。	遊具で誘ったり、励ましたりして興味を持たせるようにする。
M子	思いやりや、やさしさがある。	楽しさや充実感を味わいながら、気の合う友達とめあてをもって遊べるように援助する。
N子	試したり、工夫したりしながら主体的に遊ぶことができる。	仲間関係の広がりや、いろいろな友達と関わりながら、充実して遊ぶことができるように援助する。
O子	自分の思いを出しながら、友達と共感することができる。	自己発揮できるような場面を作り、認めたり、励ましたりする。
P子	主体的に遊びを進めていくなかで、時にはいじけたりすることがある。	自分の思いが素直に表現できる雰囲気を作るようにする。

## VI 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 望ましい発達を促すためには環境構成がいかに大切であるかを、幼児が変容していく姿から学ぶことができた。
- (2) 幼児の興味、関心から環境構成を工夫することにより、「イメージの広がり」「挑戦しようとする姿」「運動能力」「知的発達」「一生懸命取り組む姿」を確認することができた。
- (3) 幼児に影響を与えるような、環境構成づくりに取り組むことで、思いやりや、やさしさなどの心情面、物事に取り組むことのできる意欲や態度、安全面に対する配慮、仲間意識の育ちが見られた。
- (4) いかに教師の姿勢が大切で、幼児の生活に大きく影響を及ぼすかがわかった。

### 2 課題

- (1) ターザンロープやスクーター遊びの年間指導計画の作成
- (2) 教師の援助のあり方
- (3) 幼児の発達を促すために家庭との連携を深める。

#### < 主な参考文献 >

文部省	「幼稚園教育要領解説」	フレーベル館	1999年
柴崎正行	「子どもの発達相談」	フレーベル館	1995年